

JAHA 家庭犬マナーチャレンジのご案内

はじめに

公益社団法人日本動物病院協会は、ヒューマン・アニマル・ボンド（人と動物の絆）の理念のもとに、人と動物とが幸せに共生できる社会の実現を目指しています。JAHA 家庭犬マナーチャレンジは、飼い主と犬が共に地域社会で幸せに楽しく暮らしていくために身につけて頂きたい内容が盛り込まれています。自分の犬の性格や行動などを理解し、それらに応じた対応ができるかどうかをチェックします。日々のレッスンの中で学んだことが実践出来ているかを確認するためにも、是非チャレンジしてください！

テストのポイント

1. 地域社会に迷惑をかけずマナーを守り、犬との生活を楽しんでいること。
2. ほめてしつけるトレーニング方法によって基本的なしつけができていること。
3. 犬の健康管理、予防を適切に行っていること。

受験資格

- JAHA 認定家庭犬しつけインストラクターのしつけ方教室に参加している飼い主と犬のペア
- 予防接種（狂犬病、ジステンパー・パルボ等の混合注射）がなされていること。
- 人と動物の共通感染症、フィラリア等、人間や他の動物に感染する恐れのある病気、外部寄生虫がないこと。
- 地域の自治体へ飼い犬の登録申請（畜犬登録）をしていること。
- 犬の鑑札と狂犬病予防注射済票を装着していること。

※犬の所在地を管轄する市区町村が「狂犬病予防法の特例」制度に参加している場合、マイクロチップが狂犬病予防法に基づく鑑札とみなされます。該当される方はお申し出の上、マイクロチップ登録証明書をご提示ください。

申し込み方法

- テストを実施している JAHA 認定家庭犬しつけインストラクターへ直接お申込みください。
受験料は各インストラクターへお問い合わせください。
- 合格時に合格証発行料として 1,100 円が必要です。（合格者には合格証と記念グッズを進呈します。）

試験内容

- 実技（約 10 分）と、筆記テスト（20 問、約 10 分）を受けていただきます。
<実技> 家庭内マナー、お散歩マナー、旅行・おでかけマナー、動物病院マナー
<筆記> 法関連、しつけ方関連、健康・安全関連、マナー関連

審査に関する注意事項

- フード使用可（おやつは 1 日に必要とするカロリーの 10% まで）
 - ハンドシグナルの継続提示可
 - 音声シグナルは、周囲が不快と感じない程度であれば可
- ※実技は、途中で失敗した項目があっても必ず最後まで受けられます。

合否判定

- 実技と筆記テストでそれぞれ 80% 以上できていることが合格基準です。
- ジャッジが試験会場で審査します。結果は試験当日お知らせします。
- 不合格の方には原則として当日その理由とアドバイスをお知らせいたします。
- 実技または筆記どちらかが不合格の場合は、1 年以内に不合格のテストのみを受験し、合格すればよいものとなります。
- 合格は飼い主と犬のペアに対して行います。

JAHA 家庭犬マナーチャレンジ
レギュレーション
(実技テストの内容および合否判定の基準)

受験者用

1. テスト受験にあたっての注意事項

(1)首輪・リード等

プレミアタイプ、一般の首輪、ジェントルリーダー、イージーウォークハーネスなど、J A H A 認定家庭犬しつけインストラクターが推奨する道具を使用すること。

テスト項目によって道具を変えても良い。ただし、脱着に手間取ったり、脱着を嫌がる場合は不合格となります。

フレキシリードはオイデのテストのみ使用可。

(2)吠えに関して

飼い主が犬の吠えをコントロールできていること。吠えた場合は、物理的にまたは誘導で視線をはずさせるなど、吠えなくなるよう適切な対応がなされていること。

(3)飛びつきに関して

実際に飛びつく行為はNG。飛びつきを防止するためにリードを踏む、抱き上げるなどの対応は可。

(4)フード、おもちゃ

ポーチを装着すること、フード、おもちゃの使用は可。

※主食以外のおやつは1日に必要とするカロリーの10%までとします。

(5)音声シグナル・ハンドシグナル

ハンドシグナルの継続提示可。

音声シグナルは、周囲が不快と感じない常識の範囲内であれば可。

(6)禁止事項

強制的に犬を動かすこと。

チョークカラー（引き締め首輪）、ピンチカラー、スリッカラーなどの道具を使用すること。（ジェントルリーダーは除く。）

2. テスト内容と判定基準

<家庭内マナー>

a. ブラッシング

【目的】 日常のお手入れができるかを確認するために行う。

【方法】 暴れず、逃げようとせず、噛みつこうせず、じゃれつかずに、おとなしくブラッシングをさせるかどうかを見る。(コングやおやつに集中させてもかまわない。抱いてもかまわない。)

【判定基準】

まったく問題がない・・・○

暴れる、逃げる、噛みつく、じゃれつくなどのそぶりを見せてもすぐに静まった、軽くくなったなど・・・△

暴れる、逃げる、噛みつく、じゃれつく、強くうなる、などがあった場合・・・×

b. 足ふき

【目的】 日常のお手入れができるかを確認するために行う。

【方法】 暴れず、逃げようとせず、噛みつこうせず、じゃれつかずに、おとなしく足ふきをさせるかどうかを見る。(コングやおやつに集中させてもかまわない。抱いてもかまわない。)

【判定基準】

まったく問題がない・・・○

暴れる、逃げる、噛みつく、じゃれつくなどのそぶりを見せてもすぐに静まった、軽くなくなったなど・・・△

暴れる、逃げる、噛みつく、じゃれつく、強くうなる、などがあった場合・・・×

c. おいで

【目的】 日常生活において危険回避、好ましくない行動の回避のために欠かせない行動ができるかどうか、飼い主との信頼関係が来ているかどうかを確認するために行う。

【方法】 3m以上離れた場所から呼びよせ、逃げようとせず、噛みつこうせず、じゃれつかずに、おとなしくリードを付け替えさせるかを見る。(オイデで来たあとにリードを踏んでもかまわない。呼びよせ時のリードは、ロングリード、フレキシリードどちらでも可。)

【判定基準】

寄り道せずに来て、リードを付け替えさせる・・・○

寄り道せずに来る、リードを付け替えさせる、のいずれかに若干の問題がある・・・△

来ない、リードが付け替えられない・・・×

d. 足下でのフセ・マテ 1分 (飼い主は本を読む)

【目的】 日常生活において落ち着いて欲しいときに、リラックスできるかを確認するために行う。

【方法】 イスに腰掛けた飼い主の足下でフセで待てるかを見る。(フードを時々あげてかまわない。)

【判定基準】

まったく問題がない(本を落ち着いて読める)・・・○

フード入りコングを踏む。フードをあげる回数が少し多い、2~3回立ち上がるなどでも、本を読める程度であれば・・・△

何回も立ち上がる、フードを頻繁にあげすぎるなど、本が読めない状態・・・×

<お散歩マナー>

a. 他の犬とのすれ違い（1メートルの間隔でのすれ違い）

【目的】日常のお散歩を快適に安全にストレスなくできるかどうかを確認するために行う。

【方法】他犬とのすれ違いが問題なくできるかを見る。（止まらずにすれ違うのも、止まって相手をやり過ごすのも可。）

【判定基準】

まったく問題がない・・・○

相手を気にするが、すぐに飼い主に集中する。フードで誘導して通過する・・・△

相手を気にして飼い主に集中できない・・・×

b. 扉の出入り

【目的】日常の様々な状況でオスワリ・マテができるか、また飛び出すことがないよう安全に配慮ができているかを確認するために行う。

【方法】扉の前で犬にスワレ・マテをかけ、扉を開け飼い主の指示で、扉の外へ出る。教室の扉でもかまわないし、サークルの1面とイスなどを組み合わせて扉の開け閉めのシミュレーションができるかたちでも可。

【判定基準】

1～2回立ち上がるが、犬が飛び出すことはない・・・○

3回以上立ち上がるが、犬が飛び出すことはない・・・△

座らない、飛び出す・・・×

c. 他の人とのあいさつ

【目的】日常の様々な状況で他者に対して、吠えない、飛びつかないような配慮ができるかを確認するために行う。

【方法】他人が1メートルまで近づいて飼い主と挨拶する。

【判定基準】

スワレ・マテが維持できる・・・○

2回立ち上がるができる・・・△

3回以上立ち上がる、吠える・飛びつく・・・×

d. リードをたるませてのお散歩

【目的】日常のお散歩を安全かつ落ち着いて楽しめるかどうかを確認するために行う。

【方法】コーン（イスでも可）を1.8メートル離して2個おき、8の字で歩く。途中オスワリあり。

【判定基準】

引っ張らずに落ち着いてお散歩でき、スワレも問題なくできる・・・○

多少引っ張る（リードが張っている、匂いかぎをしている、が全行程の30%未満）、3秒以内にはスワリ始める・・・△

全行程の30%以上、リードが張っている、匂いかぎをしている、3秒をこえてもスワリ始めない・・・×

＜旅行・おでかけマナー＞

a. キャスター付き旅行鞆などが背後を通っても飼い主に集中する

【目的】ストレスなく旅行・おでかけなどを楽しめるかを確認するために行う。

【方法】キャスター付き旅行鞆やキャリー、台車が、犬の背後（1m以内）を普通に歩く速度で通過した直後、1秒以内にアイコンタクトがとれるかどうかを見る。（フセ・マテ、スワレ・マテをかける、アイコンタクトを持続させるなどでも可。）

【判定基準】

名前を呼ぶとすぐに飼い主に注目する、アイコンタクトを持続している・・・○
刺激の方をじっと見つめる、びっくりするなど多少刺激に反応を示すが、3秒以内には集中がとれる・・・△

吠える、飛びかかる（追いかける）、3秒以内にはアイコンタクトが取れない・・・×

b. クレートでの待機

【目的】旅行・おでかけ先でストレスなく待機できるかどうかを確認するために行う。

【方法】ハウスという指示でハウスに入り、掛け布をかけた状態で飼い主がその部屋からでもおとなしく待機できる（1分間）を見る。（ハウスに入れる際、フードを投げ込むのも、入った後コングやガムを与えるのも可。）

【判定基準】

問題なくできる・・・○

入れるとき犬の体に触れる（入ればおとなしい）・・・△

入るのを嫌がる、吠える・・・×

c. オスワリまたはフセ・マテでものを拾う

【目的】旅行・おでかけ先で、快適に安全に、バッグの中を探したり、靴ヒモを結び直したり、ものが拾えたりするかを確認するために行う。

【方法】犬にスワレ・マテ、またはフセ・マテをさせ、床にあるボールペン大の任意の物を拾えるかを見る。（スワレ、フセの姿勢になった後、リードを踏むのは可。）

【判定基準】

問題なくできる・・・○

フセからスワレ、スワレからフセに移行してしまう、立っても落ち着いてものが拾える・・・△

落ち着いてものが拾えない・・・×

d. 不慣れな足場を通過する

【目的】旅行・おでかけ先で、いつもと違う足場を、快適に安全にストレスなく通過できるかを確認するために行う。

【方法】床に置いたサークル1面の上を通過できるかを見る。（四肢が乗ることが必要／フードで誘導するのも可。）

【判定基準】

問題なく通過できる・・・○

フードをばらまくことで通過できる・・・△

通過できない・・・×

＜動物病院マナー＞

a. 他の人に犬を預ける

【目的】動物病院で病院スタッフに犬を預けられるかを確認するために行う。（災害時に他人に犬を託せるかどうかを確認するため。）

【方法】リードをジャッジに持ってもらい、飼い主はその部屋から出て行き、姿を隠しすぐに戻る。（フセ・マテ、スワレ・マテの指示をかけても良い。）

【判定基準】

おとなしく待ってられる・・・○

少し引っ張る、少し吠える・・・△

ずっと引っ張る、ずっと吠える・・・×

b. 診察台に乗せ・診察を受ける

【目的】動物病院においておとなしく診察、治療ができるかを確認するために行う。

【方法】診察台あるいはトリミングテーブルに飼い主が乗せ、白衣またはケージを着た人に全身を触らせるかを見る。

【判定基準】

問題なくできる・・・○

台に乗せる時、触られるとき多少嫌がる・・・△

暴れる、噛みつく、見させない・・・×

c. 歯のお手入れ

【目的】歯周病予防を実践できるか確認するため行う。

【方法】暴れず、逃げようとせず、噛みつこうとせず、じゃれつかずに、おとなしく歯のお手入れをさせるかどうかを見る。

【判定基準】

問題なくできる・・・○

多少嫌がるができる・・・△

できない・・・×

d. 健康チェックのため体を触る

【目的】日常の健康チェックができるかどうか確認するために行う。

【方法】飼い主が目を覗く、耳の中を覗く、口の中を見る、つま先、お尻のチェックができるか、を見る。

【判定基準】

問題なくできる・・・○

多少嫌がるができる・・・△

暴れる、噛みつく、触らせない・・・×

3. 実技テスト合否

各項目、○、△、×で判定し、○は 25 点、△は 15 点、×は 0 点と換算。

〈家庭内マナー〉、〈お散歩マナー〉、〈旅行・おでかけマナー〉、〈動物病院マナー〉のそれぞれで、80 点以上で合格とします。

（すべての項目が合格点に達していること。どれか一項目でも 80 点未満なら不合格）